

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成30年度事業分)

1 施設の概要

| | | | |
|------------------|---|-------------------|-----------|
| 施設名 | 山梨県立八ヶ岳牧場 | 所管課 | 農政部 畜産課 |
| 所在地 | 本場:北杜市小淵沢町大平10061 天女山分場:北杜市大泉町西井出 | 設置年月日 (改築年月日等) | 昭和43年4月1日 |
| 管理方式 | 公益財団法人山梨県子牛育成協会 | | |
| 設置根拠 (法律、条例等) | 山梨県立八ヶ岳牧場設置及び管理条例 | | |
| 設置目的 | 農家家畜を受託放牧するとともに、県有牛を改良増殖し繁殖牛・肥育素牛を供給し、もって本県の畜産振興に資することを目的とする。 | | |
| 主な施設内容 (定員等) | <ul style="list-style-type: none"> ○敷地面積 約583ha ○建物延面積6,202.67㎡ ○建物の構造 RC、鉄骨造 ○建物の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・八ヶ岳牧場看視舎 RC 250㎡ ・避難舎 鉄骨造 918㎡ ・分娩・衛生舎棟 389.67㎡ ・畜舎 鉄骨造 772.80㎡ ・育成牛舎 鉄骨造 581㎡ ・家畜排泄物処理施設 鉄骨造 1,811.2㎡ ・育成牛舎 鉄骨造 1,080㎡ ・飼料庫 400㎡ ○その他施設 <ul style="list-style-type: none"> ・草地:331ha(採草地77ha、放牧地254ha) | | |
| 主な業務内容 | <ul style="list-style-type: none"> (1)利用の承認に関する業務 (2)施設及び設備器具の維持保全に関する業務 (3)家畜の飼養管理及び改良増殖に関する業務 (4)牧草の栽培に関する業務 (5)家畜排せつ物のたい肥化に関する業務 | | |

2 類似施設・近隣施設

| | |
|---------------------|--|
| 名称 施設内容 利用状況等 | |
|---------------------|--|

3 利用状況

単位:頭、%

| | | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 (目標値) |
|------|-----------------|-----------------|---------|---------|----------------|
| 利用者数 | 受託頭数(延べ頭数) | 115,584 | 123,187 | 124,083 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 利用者数合計 | 115,584 | 123,187 | 124,083 | |
| | 目標値 | 120,000 | 120,000 | 120,000 | 120,000 |
| | 目標値設定の考え方及びその理由 | 過去5年間の平均受託頭数で設定 | | | |
| | 対28年度比 | | 106.6% | 107.4% | |
| 利用率 | | 316.7頭 | 337.5頭 | 340.0頭 | |

4 指定管理業務の収支状況

単位:円、%

| | | 平成29年度 | 平成30年度 (計画値) | 平成30年度 (実績値) | 令和元年度 (計画値) |
|-------------|------------|-------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 収入 | 施設利用料 | 46,990,920 | 44,815,000 | 46,996,050 | 45,229,000 |
| | 指定管理者委託料 | 194,978,000 | 203,058,000 | 203,058,000 | 191,182,000 |
| | その他 | | | | |
| | 収入合計(A) | 241,968,920 | 247,873,000 | 250,054,050 | 236,411,000 |
| 支出 | 人件費 | 142,488,408 | 150,936,000 | 140,381,644 | 136,724,000 |
| | 県への納付金 | | | | |
| | 管理運営費 | 87,880,120 | 96,937,000 | 89,710,160 | 99,687,000 |
| | うち外部委託費(B) | 2,082,380 | 2,141,000 | 2,389,738 | 2,440,000 |
| | 支出合計(C) | 230,368,528 | 247,873,000 | 230,091,804 | 236,411,000 |
| 収支差額(A-C) | | 11,600,392 | | 19,962,246 | |
| 外部委託比率(B÷C) | | 0.9% | 0.9% | 1.0% | 1.0% |
| 利用者一人当たりの経費 | | 1,582.8 | 1,692.2 | 1,636.5 | 1,593.2 |

5 利用者満足度(アンケート様式は別添のとおり)

| | |
|-------|---|
| 実施方法等 | 実施時期:平成31年2月～3月 実施方法:平成30年度の預託利用者および売却牛と堆肥の購入者へのアンケート(聞き取り) 回答数:57名 |
|-------|---|

単位:%

| 調査項目 | 満足 | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 不満 |
|-----------------|-------|------------|------------|----|
| 家畜の受託に対する満足度 | 94.3% | 5.7% | | |
| 県有家畜の売却に対する満足度 | 91.1% | 8.9% | | |
| たい肥の売却に対する満足度 | 80.3% | 19.7% | | |
| 八ヶ岳牧場の事業に対する満足度 | 80.6% | 12.5% | 6.9% | |
| | | | | |
| 施設全般の満足度 | 91.2% | 8.8% | | |

| | |
|------------|---|
| 利用者の意見 | <p>【家畜の受託】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退牧牛の黒毛和種が無事分娩した。 ・申請してすぐに入牧したい。 <p>【県有家畜の売却】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠売却牛が無事分娩した。 ・安価で購入したが、小さい牛は飼い難い。 <p>【たい肥の売却】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠方まで配達してくれるので助かる。 ・化成肥料のように速効性はないので効果ははっきりわからない。 |
| 利用者の意見への対応 | <p>【家畜の受託】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託家畜を健康に育成すべく日常の飼養管理に取り組んで行く、衛生検査体制の見直しを実施し、受託家畜の発育向上に努める。 <p>【県有家畜の売却】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血統や育種価を重視し県有牛の改良を進めるとともに、飼養給与体系に関する情報提供や技術の共有を図り、県全域での管理技術の向上を図っていく。 <p>【たい肥の売却】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天候等変化に応じて適切な水分調整を行い、安定的なたい肥の生産に努める。 |

6 評価結果

| | 指定管理者の自己評価 | 施設所管課の評価 |
|--------|---|---|
| 維持管理業務 | 施設、備品等の保全管理を適切に実施するよう努めた。車輛、農機具の経年劣化による故障が効率的な業務執行の妨げとになっているので今後計画的更新が必要である。 | 引き続き適切な保全管理に努めること。 老朽施設、備品等の更新などについて今後検討していきたい。 災害対応について職員意識の一層の向上に努め、利用家畜の安全確保を図ること。 |
| 運營業務 | 県内飼養戸数・頭数の減少傾向の中で、新規利用者の開拓・中途入牧の積極的な受入等、受託の推進を図って行くとともに、授精業務等を充実し利用頭数の安定確保に努める必要がある。緩行性肥料の導入、肥料の散布の見直し等で効率的な管理作業に取り組めた。牧場堆肥の利用者の多くが定着化している。 | 受託頭数は目標を達成しており、大変評価出来る。引き続き、利用頭数の確保に努めること。 目標以上に生産子牛を供給できたことは高く評価出来る。今後も県有牛の適切な管理に努め、生産子牛頭数を確保すること。 貯蔵粗飼料生産についても、肥料散布体系の見直し等を行っており高く評価できる。より効率的な管理に努めること。 堆肥生産も安定的に行っており、高く評価できる。今後も安定生産・販売に努めること。 |
| 利用状況 | 積極的な中途入牧の受入等により、夏期利用を推進し増頭に努めた結果、肉用牛の受託頭数が増加し目標を達成できた。 | 受託頭数の目標達成は高く評価出来る。積極的なPR活動により、利用者のニーズに応え、引き続き受託頭数の目標を達成できるよう努めること。 |
| 収支状況 | 計画を上回る利用料が確保できたことにより、収入は計画を上回った。また自給粗飼料の安定確保により乾牧草などの飼料費が節減されたことや、肥料散布体系の見直しにより肥料購入経費等の原材料費が節減された。 | 利用頭数の増頭に努め、利用料金収入を確保すること。 飼料費が計画より下回ったことは高く評価できる。今後も引き続き、経費の削減に努めること。 |
| 自主事業 | | |
| 利用者満足度 | 牧場利用者の全ての人が、「満足」、「どちらかといえば満足」と回答しており、満足度は非常に高い。 | 利用者のほとんどから高い満足度が得られていることは、高く評価出来る。 今後も継続して、利用者満足度の維持向上に努めること。 |

| | |
|---------------------------------|---|
| <p>運営目標の達成状況</p> | <p>家畜の年間受託延べ頭数は、124,083頭で、目標である120,000頭を4,083頭上回り、達成率は103.4%である。 県有牛の供給頭数は153頭(うち子牛143頭)で、目標である130頭を23頭上回り、達成率は117.7%である。</p> |
| <p>施設所管課による総合的な評価及び指導事項</p> | <p>各種業務は適切に実施されており評価出来る。 家畜の年間受託延べ頭数についても目標を上回っており、引き続き、飼養管理技術の向上や未利用者へのPRに努め、受託頭数の確保を図ること。 利用者の要望に応えながら、家畜受託、県有牛の生産、堆肥生産等に努めること。</p> |
| <p>施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況</p> | <p>引き続き各業務を適切に行う。 夏期預託の受託頭数を増頭させることにより、受託延べ頭数の確保に努める。 性選別精液や受精卵移植の活用など繁殖技術や飼養管理技術の向上を図り、利用者のニーズにあったサービスを提供することで、更なる満足度の向上に努める。</p> |

7 管理体制(組織図)

平成30年4月1日現在

